

G-7 ホールディングス

7508 東証 1 部

2015 年 12 月 22 日 (火)

Important disclosures
and disclaimers appear
at the back of this document.

企業調査レポート
執筆 客員アナリスト
佐藤 譲

■ 半期ベースでは 3 年ぶりの過去最高業績を更新

「オートバックス」「業務スーパー」のフランチャイジーとして国内最多店舗数を運営する子会社を有する持ち株会社。アグリ事業や食品・外食事業、海外事業などにも展開し、新規出店 M&A を活用しながら積極的な事業拡大を進めている。

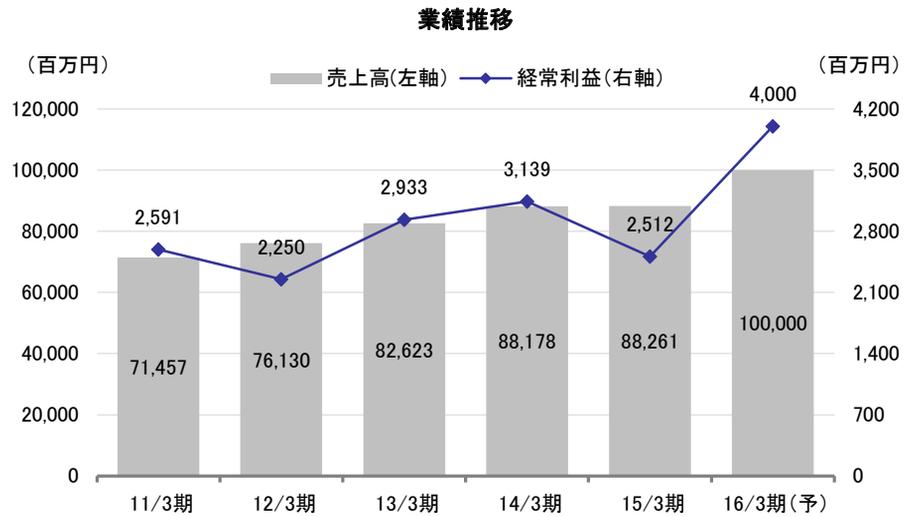
11 月 4 日付で発表された 2016 年 3 月期第 2 四半期累計 (2015 年 4 月-9 月) の連結業績は、売上高が前年同期比 16.6% 増の 49,066 百万円、経常利益が同 50.4% 増の 1,211 百万円となり、半期ベースでは 3 年ぶりに過去最高業績を更新した。業務スーパー・こだわり食品事業が好調に推移したほか、前年は消費税増税の影響で苦戦したオートバックス・車関連事業も回復したのが主因だ。また、6 月に精肉の小売事業を展開する (株) テラバヤシを連結子会社化したことにより、売上高で約 30 億円、営業利益で 1 億円強の上乗せ要因となっている。

2016 年 3 月期は、売上高が前期比 13.3% 増の 100,000 百万円、経常利益が同 59.2% 増の 4,000 百万円と期初計画を据え置いた。第 2 四半期までの進捗率で見ると、売上高は 49.1% と順調に推移しているものの、経常利益は 30.3% とやや低水準となっている。ただ、各事業において経費削減や 1 人当たり生産性の向上を推進していくことで、収益の改善が見込まれること、また、オートバックス・車関連事業では冬の降雪状況によって大きく収益が変動する可能性があり、利益ベースでも計画の達成を目指していく方針だ。

中期的には国内だけでなく、海外事業の拡大にも注力していく。特に、ここ数年は日系外食企業の東南アジア進出が増えてきており、現地での日本の食材需要高まりに対応するため、農・畜産物を中心に食品の輸出強化を進めていく方針だ。2016 年にはシンガポールに合併事業で食品スーパーの出店を予定している。海外事業の売上規模は 2016 年 3 月期見込みで 2.8 億円程度だが、M&A も活用しながら 5 年後には 100 億円規模にまで育成したい考えだ。当面は先行投資期間となるため赤字が続く見通したが、成長ポテンシャルは高く、将来的には主力事業の 1 つになるものとして注目される。

■ Check Point

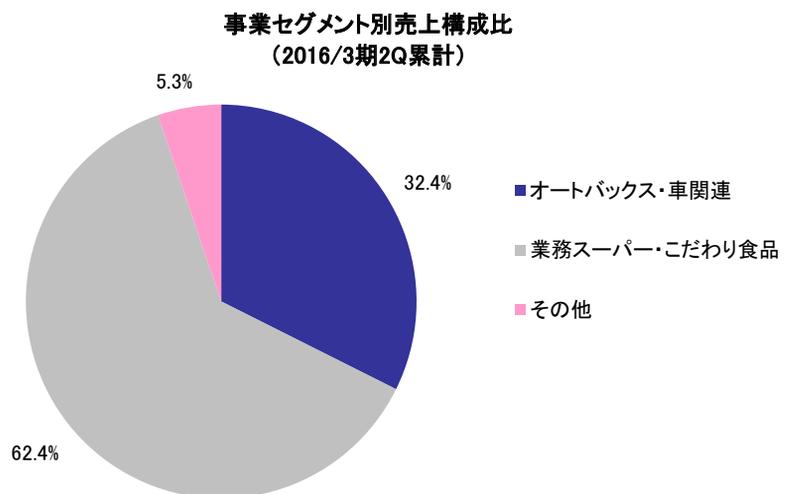
- ・ 1 人当たり生産性向上や適正在庫を徹底し収益力を強化
- ・ (株) テラバヤシの子会社化で関連事業の業績は計画を上回る公算が大きい
- ・ 収益拡大による純資産の拡大で、財務基盤の強化が着実に進む



■ 事業概要

オートバックス、業務スーパーなどのフランチャイジー

同社の事業は、オートバックス・車関連事業、業務スーパー・こだわり食品事業、その他事業の3つの事業セグメントで構成されている。2016年3月期第2四半期累計の事業別売上高構成比を見ると、オートバックス・車関連事業で32.4%、業務スーパー・こだわり食品事業で62.4%となり、両事業で全体の90%以上を占めている。



○オートバックス・車関連事業

オートバックスのフランチャイジーでカー用品販売、メンテナンスなどを展開する(株) G-7・オート・サービスと、バイク用品の販売・メンテナンス事業を展開する(株) G-7 モーターズなどで構成されている。売上高の約 9 割はオートバックス関連で占められ、2015 年 9 月末時点でオートバックス関連国内店舗数は 70 店舗(その他マレーシアで 2 店舗)を展開し、オートバックスグループ国内店舗(591 店舗)の中では最大規模となっている。出店エリアは兵庫県、京都府、福井県、岡山県、広島県、千葉県、茨城県にてドミナント展開しており、その他にも洗車・コーティング専門店のクリスタルセブン 6 店舗、タイヤ専門館 1 店舗、钣金集中センター 4 店舗、スズキカース大阪 1 店舗などを展開している。1 人当たり生産性や在庫回転率などを重視した店舗運営を徹底しており、オートバックスグループの中では、もっとも高い収益性を維持していることが特徴となっている。

一方、バイク用品については直営のバイクワールド(2015 年 4 月よりバイクセブンから名称を変更)を 2015 年 9 月末時点で国内に 10 店舗、マレーシアに 2 店舗展開している。

○業務スーパー・こだわり食品事業

業務スーパーのフランチャイジー展開をする(株) G-7 スーパーマーケットと、食品・飲食店事業を展開する(株) G7 ジャパンフードサービス、及び 6 月より連結子会社化した精肉の小売事業を主に展開する(株) テラバヤシの事業で構成されている。

売上高の 8 割強を(株) G-7 スーパーマーケットで占めており、2015 年 9 月末の業務スーパー店舗数は 115 店舗と業務スーパーグループ(708 店舗)の中で最大規模となっている。出店エリアは関東、中部、関西、九州、北海道地域で、ドミナント展開をしている。

(株) G7 ジャパンフードサービスは 2015 年 4 月に、従来の(株) G-7 食品システム(こだわり食品事業や旧上野食品(株)、(株) コールドファミリーなどの事業)を吸収合併するとともに、国内の飲食店事業、食品の PB 商品開発、輸出入事業、ネット通販事業なども統合した組織体制となっている。

また、(株) テラバヤシについては精肉の小売店を 84 店舗出店しており、その大半は業務スーパー及びめぐみの郷へのテナント出店となっている。精肉小売事業以外では FC 事業で女性向けフィットネスクラブのカーブスを神奈川県内に 15 店舗出店するなどしている。今回、子会社化した目的は、(株) テラバヤシが持つ精肉の仕入れや目利き等に関する高度な知識やノウハウなどが、同社グループの食品関連事業の強化において、シナジー効果をもたらすと考えたためだ。株式出資比率は 78.45%、取得価額は 1,025 百万円となっている。(株) テラバヤシの業績は、2014 年 3 月期で売上高 8,627 百万円、営業利益 149 百万円となっており、初年度から連結業績への貢献が見込まれている。

(株) テラバヤシの業績推移

(単位：百万円)

| | 売上高 | 営業利益 | 経常利益 | 純利益 | 総資産 | 純資産 |
|--------|-------|------|------|-----|-------|-------|
| 13/3 期 | 8,543 | 191 | 237 | 268 | 3,841 | 1,366 |
| 14/3 期 | 8,627 | 149 | 226 | 202 | 3,427 | 1,566 |

2015 年 12 月 22 日 (火)

○その他事業

その他事業は、農産物直販所「めぐみの郷」を運営する(株)G-7 アグリジャパンのほか、リユース事業、ダイソー事業、不動産賃貸事業など複数の事業を展開する(株)G-7 デベロップメント、海外事業を担う G7 INTERNATIONAL PTE. LTD. (マレーシアのオートボックス・バイクセブン事業を除く) 他で構成されている。「めぐみの郷」については 2015 年 9 月末時点で 19 店舗(兵庫 13 店舗、奈良 4 店舗、大阪 2 店舗)を出店している。また、海外のアグリ事業ではベトナムで菊の栽培を行い、国内のめぐみの郷で輸入販売しているほか、ミャンマーでイチゴを栽培し、現地の大手流通企業であるシティマートの店舗で販売を開始している。

主な連結子会社

| 会社名 | 出資比率 | 事業内容 |
|------------------|--------|---------------------------|
| G-7・オート・サービス | 100.0% | 「オートボックス」の運営等 |
| G-7 モーターズ | 100.0% | 「バイクワールド」の運営等 |
| G-7 スーパーマーケット | 100.0% | 「業務スーパー」の運営等 |
| G7 ジャパンフードサービス | 100.0% | 食料品・飲料の製造、販売及び輸出入、飲食店運営等 |
| テラバヤシ | 78.45% | 精肉及び畜産加工品の小売事業、FC 事業 |
| G-7 デベロップメント | 100.0% | グループの不動産開発、リユース事業、新事業の開発等 |
| G-7 アグリジャパン | 100.0% | 「めぐみの郷」の運営等 |
| G7 INTERNATIONAL | 100.0% | 海外子会社の持株会社 |

■ 業績動向

1 人当たり生産性向上や適正在庫を徹底し収益力を強化

(1) 2016 年 3 月期第 2 四半期累計業績

11 月 4 日付で発表された 2016 年 3 月期第 2 四半期累計の連結業績は、売上高が前年同期比 16.6% 増の 49,066 百万円、営業利益が同 92.8% 増の 1,243 百万円、経常利益が同 50.4% 増の 1,211 百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益が同 96.7% 増の 841 百万円と好調な決算となり、半期ベースでは 3 年ぶりに過去最高業績を更新した。グループ全体で「経費削減、1 人当たり生産性向上、適正在庫」の方針を徹底し、収益力強化に取り組んできたことが増収増益につながった。

事業別では、業務スーパー・こだわり食品事業が好調に推移したほか、前年は消費税増税の影響で苦戦したオートボックス・車関連事業も回復した。また、6 月に(株)テラバヤシを連結子会社化したことにより、売上高で約 30 億円、営業利益で 1 億円強の上乗せ要因となったことも寄与した。経常利益の増益率が営業利益よりも低くなっているが、これは営業外収支の為替差損益が前年同期比で 226 百万円悪化したため。また、(株)テラバヤシの子会社化に伴って負ののれん発生益 209 百万円を特別利益として一括計上している。事業セグメント別の動向は以下のとおり。

2016 年 3 月期第 2 四半期累計業績 (連結)

(単位: 百万円)

| | 15/3 期 2Q 累計 | | 16/3 期 2Q 累計 | | |
|------------------|--------------|-------|--------------|-------|-------|
| | 実績 | 対売上比 | 実績 | 対売上比 | 前年同期比 |
| 売上高 | 42,092 | - | 49,066 | - | 16.6% |
| 売上原価 | 31,432 | 74.7% | 36,597 | 74.6% | 16.4% |
| 販管費 | 10,015 | 23.8% | 11,224 | 22.9% | 12.1% |
| 営業利益 | 645 | 1.5% | 1,243 | 2.5% | 92.8% |
| 経常利益 | 805 | 1.9% | 1,211 | 2.5% | 50.4% |
| 特別損益 | - | - | 202 | 0.4% | - |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 427 | 1.0% | 841 | 1.7% | 96.7% |

2015 年 12 月 22 日 (火)

○オートバックス・車関連事業

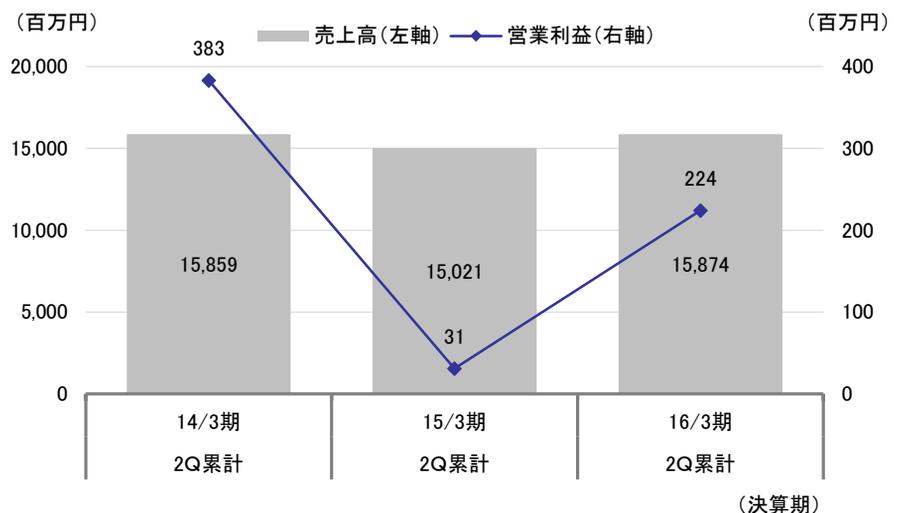
オートバックス・車関連事業の売上高は前年同期比 5.7% 増の 15,874 百万円、営業利益は同 606.5% 増の 224 百万円となった。オートバックス関連店舗の新規出店は、6 月にオートバックス及びオートバックスエクスプレス京都綾部店、9 月にオートバックスエクスプレス野田梅郷店を出店し、9 月末の国内店舗数は前年同期比 4 店舗増となる 70 店舗となった。

オートバックス関連の売上高は前年同期比 5.7% 増となり、オートバックスグループ全体が 0.7% 増にとどまったことを考えると、引き続きグループ内での強さが目立つ格好となった。商品カテゴリー別の売上動向を見ると、タイヤ・ホイールが前年同期比 10.4% 増と好調に推移したほか、車検や钣金などサービス部門も同 6.0% 増と堅調に推移した。また、ここ数年カーナビゲーション市場の縮小によって減収基調が続いていたカーエレクトロニクス部門についても、同 8.6% 増と久しぶりの増収に転じた。カー AV 機器は伸び悩んでいるものの、ドライブレコーダの販売が好調に推移したことが増収要因となった。ただ、期初の売上計画に対しては 5% 程度下回ったようだ。新規出店が少なかったことに加えて、国内の新車販売市場が低迷したことが要因となっている。

また、(株) G-7 モーターズについては減収減益と低調に推移した。4 月に店舗名を「バイクセブン」から「バイクワールド」に変更したことで、一時的に客足が落ち込んだことが影響したとみられる。

マレーシアで展開しているオートバックス (2 店舗) およびバイクワールド (2 店舗) に関しては目標を下回っている状況ではあるが、今下期には既存店舗での黒字化が見込める水準までなっている。女性客獲得のため、レディース用コーナーを設置したことや、通貨安を背景にシンガポールからの買い付け客が増加していることなどが要因とみられる。

オートバックス・車関連事業



○業務スーパー・こだわり食品事業

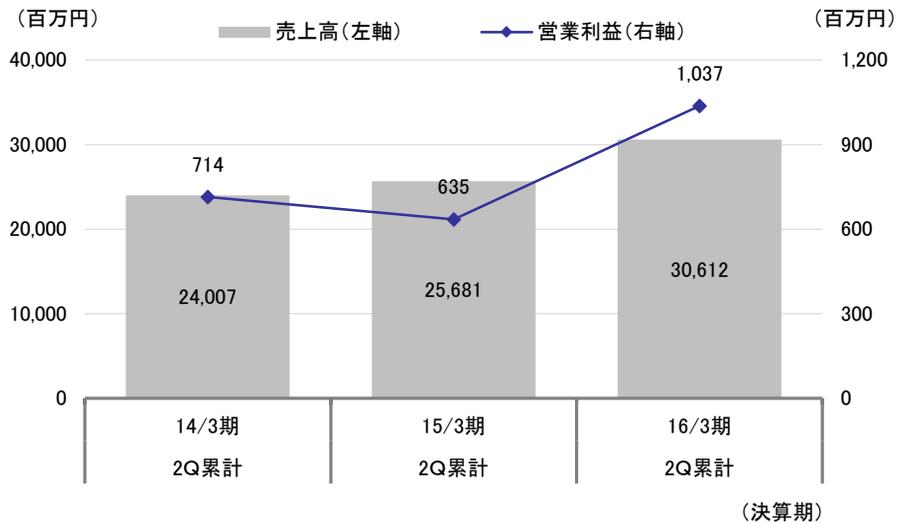
業務スーパー・こだわり食品事業の売上高は前年同期比 19.2% 増の 30,612 百万円、営業利益は同 63.3% 増の 1,037 百万円と好調に推移した。前述したように、(株) テラバヤシの業績が売上高で約 30 億円、営業利益で 1 億円強上乗せとなっており、同要因を除けば売上高は約 8% 増、営業利益は約 44% 増になったとみられる。

2015 年 12 月 22 日 (火)

主力の業務スーパーは引き続き食材コストの上昇に悩む飲食事業者や一般消費者の支持を集め、既存店ベースで増収となったほか、新規出店効果（前期末比 4 店舗増の 115 店舗）もあり、売上高は前年同期比 8.2% 増、営業利益は同 63.0% 増となった。粗利益率が 1.0 ポイント改善したほか、赤字店舗が黒字化してきたことが大幅増益につながった。

また、(株) G7 ジャパンフードサービスについては、売上高が前年同期比 19.6% 増、営業利益は同 26.7% 増と好調に推移した。外食事業は厳しさが続いているものの、こだわり食品事業に関しては新規商材の発掘、顧客の開拓が順調に進んだことで収益が拡大した。また、PB 商品も規模は小さいながらも着実に売上増に貢献している。

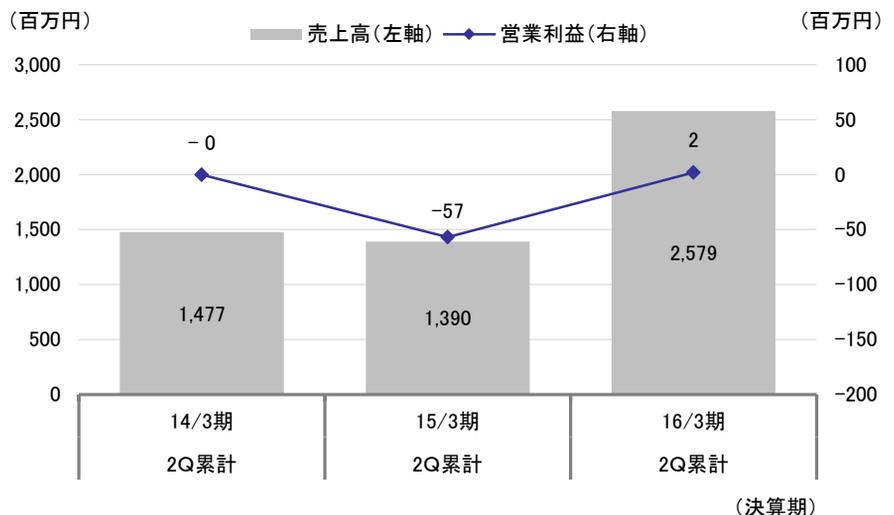
業務スーパー・こだわり食品事業



○その他事業

その他事業の売上高は前年同期比 85.5% 増の 2,579 百万円、営業利益は 2 百万円（前年同期は営業損失 57 百万円）となった。アグリ事業において、6 月より農産物の販売方法を委託販売から買取販売方式に変更したことで大幅増収となったが、利益面では海外での外食、アグリ事業等の先行投資費用増加により悪化した。なお、アグリ事業の収益に関しては若干の黒字となっている。

その他事業



(株) テラバヤシの子会社化で関連事業の業績は計画を上回る 公算が大きい

(2) 2016 年 3 月期業績見通し

2016 年 3 月期の連結業績は、売上高が前期比 13.3% 増の 100,000 百万円、営業利益が同 60.4% 増の 3,700 百万円、経常利益が同 59.2% 増の 4,000 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益が同 65.0% 増の 2,100 百万円と期初計画を据え置いた。第 2 四半期までの進捗率を見ると、売上高は 49.1% とほぼ予定通りに推移した一方で、営業利益は 33.6% と過去 5 年間の平均である 38.2% を下回る格好となった。オートバックス・車関連事業の利益がやや想定を下回ったのが要因だが、第 3 四半期以降の新規出店や G-7 モールフェスティバル等のイベント開催による集客施策等によって挽回していく方針だ。また、オートバックス・車関連事業に関しては、冬シーズの降雪状況によってタイヤの販売動向が大きく左右するため、天候状況によっても変わってくる。事業別の見通しは以下のとおり。

○オートバックス・車関連事業

2016 年 3 月期のオートバックス・車関連事業の売上高は、前期比 17.8% 増の 39,000 百万円と 2 ケタ増収を計画している（第 2 四半期までの進捗率は 40.7%）。オートバックス関連の新規出店数を M&A 含めて 15 店舗予定していたが、M&A 案件がなければ 10 店舗程度となる見通し。10 月にオートバックスカーズ習志野台店をオープンしたほか、11 月にオートバックスエクスプレス真庭店がオープンした。オートバックスのほか、ガソリンスタンドのオートバックスエクスプレス、钣金・塗装の BP センターなどの拠点を拡大していく予定だ。

利益面では新規出店に伴う経費増があるものの、既存店舗の収益力強化によって増益を見込んでいる。「経費削減、1 人当たり生産性向上、適正在庫」の実践を継続していくほか、感謝祭や G-7 モールフェスティバル等のイベント開催による売上拡大や、高付加価値サービス（钣金・塗装、車検サービスなど）の売上構成比を現状の 24% から引き上げていくことで、収益性向上を進めていく。

なお、海外では 2016 年春にタイでバイクワールドを 1 店舗出店する計画となっている。また、ベトナムでも良い立地場所が確保できれば、同一敷地内でオートバックスとバイクワールドを出店していく予定で、東南アジア地域での多店舗化を推進していく。

○業務スーパー・こだわり食品事業

業務スーパー・こだわり食品事業の売上高は前期比 10.6% 増の 58,000 百万円を見込んでいたが（第 2 四半期までの進捗率は 52.8%）、(株) テラバヤシを子会社化したことで同計画は上回る公算が大きい。

主力の業務スーパー事業の売上高は、同 12.3% 増の 53,000 百万円を計画しており、新規出店数は前期の 6 店舗から 10 店舗に増やし、既存店売上高も前期比 2% 増と堅調推移を前提としている。店舗数に関しては 10 月に 1 店舗出店しており、上期分と合わせて 6 店舗を出店したことになる。現在、7 店舗までは確定しており、残り 3 店舗の立地場所を探索している段階にある。

一方、(株) G7 ジャパンフードサービスの売上高は 5,000 百万円を見込んでいる。引き続きこだわり食品の取引先拡大や新商材発掘による収益拡大を見込んでいる。

2015 年 12 月 22 日 (火)

○その他事業

その他事業に関しては、増収増益を見込んでいる。「めぐみの郷」事業に関して、上期は 1 店舗の出店にとどまっていたが、収益性が安定してきたこともあり、今下期は奈良、大阪、兵庫で 6 店舗の出店を予定している。また、2017 年 3 月期以降は関東地域でも小型店舗での多店舗展開や FC 展開などの取り組みを強化していく方針だ。さらに、9 月には札幌に営業所を開設しており、北海道の契約農家から農産物を仕入れ、「めぐみの郷」全店で販売していくほか、海外への輸出も計画している。

海外の外食事業の状況について見ると、新たに「串かつだるま」の運営会社である(株)一門会の子会社と海外市場でのライセンス契約を 6 月に締結しており、12 月に台湾で 1 号店をオープンする。今後も、マレーシア、インドネシア、ベトナムなどで、直営店及びライセンス展開を進めていく予定となっている。また、6 月にインドネシアのイオンモール内に「ら〜めん神戸(かんべ)」を出店した。2014 年に進出したマレーシアに続いて 2 店舗目となるが、ラーメン店の直営展開は 2 店舗だけにとどめ、今後は FC 展開を進めていくことになる。

海外のアグリ事業に関してはベトナムで菊の生産が順調に進んでおり、約 40 万本を「めぐみの郷」店舗に出荷したが、2016 年には 2 倍に出荷数量を増やす計画となっている。また、ミャンマーのイチゴ生産に関しては少量を農場近くのシティマート店舗に出荷するにとどまっているが、2016 年からは出荷先を少しずつ広げていく予定となっている。

食品のアジアへの輸出に関しても今後本格的に取り組んでいく方針となっている。現状は、牛肉などを香港のホテル、レストラン向けに月間 7～8 百万円程度輸出するにとどまっているが、今後はシンガポールを拠点として東南アジア地域などに輸出先を拡大していくことで、早急に月間 30 百万円程度まで売上げを伸ばしていきたい考えた。その他、2016 年 2 月頃にはシンガポールに食品スーパーを初出店する予定となっているほか、(株)神戸物産の PB 商品の卸販売についても、現地のホテル、レストラン向けに始めることを検討している。日系外食企業の進出が増加傾向にあるなかで、現地での日本の食材需要が高まっていることが背景にある。

海外事業の売上高は 2016 年 3 月期に 280 百万円程度となる見通しだが、5 年後には M&A も活用しながら、100 億円規模に育成していくことを目標として掲げている。100 億円の内訳としてはオートバックス・車関連事業と外食・食品・アグリ事業で半々程度を見込んでいる。当面は新規出店費用等の先行投資負担により営業損失が続く見込みだが、成長ポテンシャルは大きく、将来的には同社の主力事業の 1 つに成長していくものと期待される。

■財務状況と株主還元策

収益拡大による純資産の拡大で、財務基盤の強化が着実に進む

(1) 財務状況

2015 年 9 月末の財務状況を見ると、総資産は前期末比 1,910 百万円増加の 34,249 百万円となった。増加要因の大半は(株)テラバヤシの子会社化による影響となっている。現預金は前期末比 269 百万円減少しているが、このうち約 10 億円は(株)テラバヤシの株式取得費用となっている。固定資産は同 1,674 百万円増加したが、このうち 1,340 百万円が有形固定資産の増加によるものとなっている。

一方、負債は買掛金の増加を主因に、前期末比 922 百万円増の 20,857 百万円となった。また、純資産は利益剰余金が 659 百万円増加したほか、(株)テラバヤシの非支配株主持分 354 百万円を計上したことで、前期末比 988 百万円増加の 13,392 百万円となった。

経営指標を見ると、自己資本比率は前期末比で若干低下したものの、傾向的には上昇が続いているほか、有利子負債比率も改善傾向にある。有利子負債の水準は大きく変わらないが、収益の拡大により純資産が拡大していることが要因となっており、財務基盤は着実に強化が進んでいると言えよう。

貸借対照表（連結）

（単位：百万円）

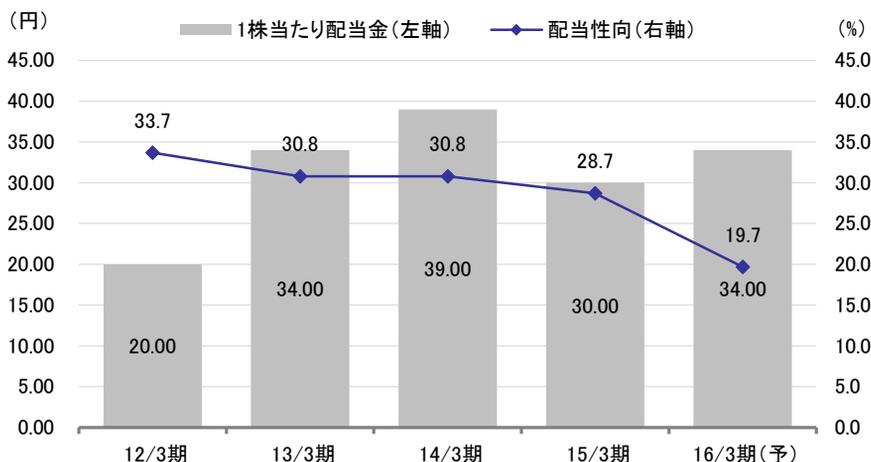
| | 13/3 期 | 14/3 期 | 15/3 期 | 16/3 期 2Q | 増減額 |
|---------------|--------|--------|--------|-----------|-------|
| 流動資産 | 13,751 | 15,089 | 15,018 | 15,254 | 236 |
| （現預金） | 6,299 | 7,183 | 6,952 | 6,683 | -269 |
| 商品及び製品 | 4,450 | 4,492 | 5,198 | 5,423 | 225 |
| 固定資産 | 16,650 | 16,968 | 17,321 | 18,995 | 1,674 |
| 総資産 | 30,401 | 32,057 | 32,339 | 34,249 | 1,910 |
| 負債合計 | 19,842 | 20,458 | 19,934 | 20,857 | 922 |
| （有利子負債） | 8,800 | 8,700 | 8,458 | 8,559 | 101 |
| 純資産 | 10,558 | 11,599 | 12,404 | 13,392 | 988 |
| 経営指標 | | | | | |
| （安全性） | | | | | |
| 自己資本比率 | 34.7% | 36.2% | 38.4% | 38.1% | |
| 有利子負債比率 | 83.3% | 75.0% | 68.2% | 63.9% | |
| （収益性） | | | | | |
| ROE（自己資本利益率） | 13.4% | 13.9% | 10.6% | - | |
| ROA（総資産経常利益率） | 10.0% | 10.1% | 7.8% | - | |
| 営業利益率 | 3.2% | 3.3% | 2.6% | - | |

業績が会社計画を達成すれば特別配当の可能性も

(2) 株主還元策について

同社は株主還元として、配当を実施している。配当政策に関しては、「安定配当の継続を前提に業績に応じた利益還元を実施することを基本方針とし、将来の事業展開に向けた投資需要や財務状況なども勘案しながら総合的に判断していく」としている。配当性向の目安としては 30% 程度を検討している。2016 年 3 月期の配当金は 34.0 円、配当性向は 19.7% の水準となるため、業績が会社計画を達成すれば、特別配当という形で上積みすることも期待される。

1株当たり配当金と配当性向



ディスクレーマー（免責条項）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。“JASDAQ INDEX”の指数値及び商標は、株式会社東京証券取引所の知的財産であり一切の権利は同社に帰属します。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したのですが、その内容及び情報の正確性、完全性、適時性や、本レポートに記載された企業の発行する有価証券の価値を保証または承認するものではありません。本レポートは目的のいかんを問わず、投資者の判断と責任において使用されるようお願い致します。本レポートを使用した結果について、フィスコはいかなる責任を負うものではありません。また、本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行動を勧誘するものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業との電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受けていますが、本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。本レポートに記載された内容は、資料作成時点におけるものであり、予告なく変更する場合があります。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、事前にフィスコへの書面による承諾を得ることなく本資料およびその複製物に修正・加工することは強く禁じられています。また、本資料およびその複製物を送信、複製および配布・譲渡することは強く禁じられています。

投資対象および銘柄の選択、売買価格などの投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

株式会社フィスコ